

④

お子さんの健康状態を確かめ、 目や耳の異常を早く見つけましょう

お子様の目と耳の働き具合を知るためのアンケートと、ご家庭で視力検査と聴力自己検査をしていただいた結果をご記入の上、3歳児健康診査を実施する医療機関へご提出ください。

必要な方には、専門医療機関で精密健康診査を行います。

子どもの目と耳

子どもの目の機能は、生まれてから物を見ることで発達を続け、6歳にはほぼ完成します。ところが、強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視があると、目の機能の発達が遅れ、よい視力が得られません。

こうした異常は、早く見つけ、小さいうちから正しい治療や指導をする必要があります。異常を見つけるために、視力検査は大切な検査です。

また、耳は、お子様のことばや知能の発達にとって、とても大切な働きをしています。最近では特に、痛みがないにもかかわらず聞こえが悪くなる中耳炎が多くなっています。

こうした病気の早期発見のためのチェックをすることは重要です。

聴覚自己検査方法

- (1) 「⑥ 絵シート」をお子様に向けて置き、1m程度離れ、向かい合い座ります。
- (2) 「この絵の名前を言うから、言った絵を指してね。」とお子様に伝え、普通の声（会話するときの声）で、「⑥ 絵シート」のひらがなで表示したとおりに絵の名前を言い、お子様が6個の絵を全て正しく指せるように練習します。
- (3) 続けて「今度は、小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて指さしてね。」と、お子様に伝え、口元を紙などで隠し、6個の名前を、ささやき声で1回ずつ言い、正しく指せれば「⑤ お子さんの耳に関するアンケート」に○、正しく指せなければ×を記入します。

☆注意事項

絵の名前を言うのは1回だけです。聞き返されても、繰り返し言わないでください。また、ささやき声が大きくなるように注意してください。

☆ささやき声の出し方

ささやき声は、息を出すだけの感じで、内緒話のようにささやきます。普通の声は、のど（のどぼとけ）に手を当てたとき、指に振動が感じられますが、ないしょ話のようにささやくと振動は感じません。この状態がささやき声です。

裏面もあります

視力検査方法

☆練習をしましょう

▼楽に本が読める程度の明るい部屋で行います

- (1) まず、「⑥ 絵シート」の裏面を確認します。お子様に練習用の指標(大きい輪)を見せて、「輪」が切れていることを教えます。
- (2) 「指標」を上・下・左・右の4方向に動かして、「輪」の切れ目の方向を、指か手または言葉で答えさせます。

☆練習は両目を開けてみましょう。「どこが切れているかな？」と聞きましょう。

☆検査をしましょう

▼検査用の指標(小さい輪)を使い、お子様と2.5m離れた距離で行います。

- (1) まず、両目で検査をします。
お子様から2.5m離れ、お子様の目の高さに検査用の指標を持ちます。上・下・左・右の4方向を見せて答えさせてください。
- (2) 次に片目ずつ検査をします。
右のイラストのように、コットンやティッシュで左目を隠して右目の検査をしてください。
- (3) 続いて隠す目を変えて、左目の検査をしてください。



☆検査結果を「⑤お子さんの目に関するアンケート」に記入しましょう。

検査がうまくできないとき

- 一度検査してうまくできなくても、何回か繰り返すと、慣れてうまくできるようになります。嫌がる時は、別の日に検査してください。
- 「輪」の切れている方向がうまく指さしできないときは、練習用の指標をお子様を持たせて、検査の指標と同じ方向に向けさせる方法で行ってみましょう。